

熊本の新時代の扉を開く

～進行する大型プロジェクト等（建設工事を中心に）～

はじめに

今年9月で熊本地震から3年5カ月が経過する。熊本県内は震災からの復旧が進み、桜町再開発ビル「SAKURA MACHI Kumamoto」が今年14日にはオープンするなど、複数の大型のプロジェクトが進行している。

なかでも「陸海空の玄関口」（熊本駅、八代港、阿蘇くまもと空港）が整備されることは特筆すべきである。かつての熊本市は、明治時代には鎮西鎮台が設置されるなど九州の中心であったが、九州の県庁所在都市で唯一港を持たないため次第に政治・軍事の中心としての機能を失っていった。そんな熊本市が、交通インフラの飛躍的な発展により再び中心地に近づく可能性が出てきたといえるだろう。このチャンスは熊本の新時代の扉を開くきっかけとなるはずである。

そこで本稿では、「陸海空の玄関口」を始めとした建設工事を中心として、現在県下で進行中のプロジェクトの現在を、写真を交えてレポートする。

1 陸海空の玄関口（熊本駅、八代港、阿蘇くまもと空港）

陸海空の玄関口の整備は、来年2020年3月に一区切りを迎える。熊本駅では白川口駅前広場の整備が完了、八代港ではクルーズ拠点整備が完了、阿蘇くまもと空港では仮ターミナルビルが開業する。

その後は、熊本駅では2020年冬に商業・オフィスビルが開業、2021年には駅前商業施設のコアとなる「アミュプラザ熊本」（仮称）が入居する商業ビルが開業する。また、阿蘇くまもと空港は2023年春に完全リニューアルオープンとなる。

（1）熊本駅（熊本駅ビル再開発）

今年3月に「熊本駅ビル」が着工した。延床面積は10万㎡と、JR九州が所有するビルの中では、「JR博多シティ」（延床面積約20万㎡）に次ぐ規模となっている。JR九州のファッション商業施設「アミュプラザ」やプレミアムホテル「ブラッサム」が入居を予定している。

また、「熊本駅ビル」の北側には延床面積1.7万㎡のオフィス・商業複合ビル「熊本駅北ビル」（仮称）が今年7月に着工している。

その他にも新幹線口側では、駐車場として同社が賃借して活用していた土地1,690㎡を取得済みで、オフィス・商業複合ビルの建設予定があり、さらに周辺の土地の取得も予定している。熊本駅周辺は、10年前と比べると隔世の感があり、熊本市の副都心といえるまでに発展を遂げている。

左上：「熊本駅ビル」、右上「熊本駅北ビル」
下：熊本駅白川口の整備後のイメージ



資料：JR九州プレスリリース（左上、右上）、熊本市ホームページ（下）

(2)八代港（八代国際クルーズ拠点）

国土交通省が進める「官民連携による国際クルーズの拠点形成」の一環として整備されている八代港の国際クルーズ拠点は、来年2020年4月に供用開始が予定されている。

海底の地盤改良や「ジャケット」と呼ばれる岸壁の設置を既に終え、今後は旅客ターミナルや「くまモンパーク」の建設が進んでいく。県南地域にとってはインバウンド増加を図るチャンスとなる。

八代港クルーズ拠点全体イメージ



資料：熊本県ホームページ

(3)阿蘇くまもと空港

国管理空港としては、仙台空港、高松空港、福岡空港に次いで4番目となるコンセッション方式での運営が、今年2019年7月に開始された。2023年には新ターミナルビルの供用開始が予定されている。

なお期待されている空港アクセス鉄道の整備については、整備費用380億円、工期10年程度で、県とJR九州が出資する第三セクター会社での運用が予定されている。

既にJR九州の同意を得ており、早期実現が望まれる。

阿蘇くまもと空港全面リニューアル後全体イメージ



資料：MSJA・熊本コンソーシアム

2 熊本城の復旧、市町村庁舎建替、道路・鉄道の整備状況

(1)熊本城の復旧

今年2019年12月の修復完了にむけて工事が進む熊本城の大天守は、10月には震災から3年半ぶりに公開が予定されている。原則として修復工事のない日曜・祝日のみの公開だが、同時期に開催されるラグビーワールドカップ・世界女子ハンドボール選手権開催期間中は土曜日の公開も予定されており、久々に大天守周辺ににぎわいが戻ってくる。

なお、2021年春には小天守の修復も完了する予定となっており、熊本市内の観光の拠点である熊本城は着実に復旧が進んでいる。また、外周の石垣の復旧等の全体復旧は約20年を要するとみられる。

修復工事中の熊本城大天守



写真提供：くまもと経済（株）地域経済センター

(2)市町村庁舎建替

県内では、8市町の庁舎建替事業が進行中であり、2022年度までには熊本市を除く7つの庁舎が竣工する予定となっている。

熊本市役所庁舎については2017年度の調査の結果、現庁舎の耐震補強改修工事が困難であることが判明した。このため検討中の整備案では、現在民間ビルに入居している市教育委員会などを集約するなどして、現庁舎より広い庁舎（延床面積約4万㎡ → 5.4万㎡）に建替えるものとなっている。事業費は、現在の場所の建替で405億円、移転建替で336億円と見込んでいる（移転建替の場合の用地取得費は含まず）。

熊本市では本年度中に新庁舎基本構想をまとめ、2021年度に設計、2022年度から解体や建設を進める予定となっている。

県内の市町村庁舎建替計画一覧

市町村名	事業費等 (億円)	完成予定 (年度内)
南 関 町	19	2019
人 吉 市	55	2020
大 津 町	41	2020
八 代 市	112	2021
水 俣 市	44	2021
宇 土 市	44	2022
益 城 町	36	2022
7市町小計	351	—
熊 本 市	336~405	未定

資料：各市町村のホームページ等より当研究所作成

(3)道路・鉄道の整備状況

地震で阿蘇地域を中心に被害を受けた県内の道路・鉄道についても復旧が進んでおり、2020年度中には復旧の節目を迎える予定。

現在運休となっているJR豊肥本線の肥後大津駅から阿蘇駅間については、当初肥後大津駅から立野駅間を先行して運行再開する計画であった。しかし、工事が難航したため、2020年度中の全区間一斉運行再開を目指している。

道路では、熊本市と阿蘇地域間の交通の要といえる2つの道路の復旧も進んでいる。国道57号線の北側復旧ルート（阿蘇市赤水と大津町引水を結ぶ約13km）では、二重峠トンネル（約3.7km）が貫通しており、2020年度中の開通に向けて大きく前進した。また、国道325号阿蘇大橋ルートでは、崩落した旧阿蘇大橋から約600m下流に架け替えられる新阿蘇大橋で、既に橋脚等の一部が完成、2020年度中の開通に向けて順調に工事が進んでいる。

上：貫通時の「二重峠トンネル」大津町側入口
下：新阿蘇大橋の完成イメージ図



写真提供：くまもと経済（株）地域経済センター（上）、国土交通省 九州地方整備局（下）

3 その他のプロジェクト等

プロジェクト名		事業費等 (億円)	完成予定	事業概要、課題など
交通インフラ				
公共交通機関等	阿蘇ロープウェイ再建	非公表	2020年度中	九州産交ツーリズムは、熊本地震で損壊し、駅舎などを解体撤去した「阿蘇山ロープウェイ」(阿蘇市)について、現地で再建すると発表した。2019年5月末に着工済み、2020年度中の運行再開を目指す。
	熊本市電延伸	100~130	2026年度	検討されていた2つのルートのうち、東区の自衛隊ルート(約1.5km)を優先して調査する方針(もう1つのルートは南熊本ルート)。今後は関係機関との協議を進めて、詳しい整備方法を検討。予定されている終点近くには移転する市民病院が2019年10月に開業する予定。
自動車専用道路	熊本環状道路	熊本西環状道路、熊本北バイパス、東バイパス等で構成される熊本都市圏の環状道路。		
	熊本西環状道路			熊本市北区下硯川町~南区砂原町間の約12kmを結ぶ自動車専用道。整備区間(北区下硯川町~西区池上町間の約9km)のうち下硯川IC~花園IC間(約4.1km)は2017年3月に暫定片側1車線で開通済みで、花園IC~池上IC間(約4.6km)の開通時期は未定。残る池上ICから砂原ICの約3kmの区間は未着工で調査区間に指定。
	熊本市内道路高架化			交通渋滞を緩和するため、連続する高架道路の整備を検討中。都市高速道路の設置も視野に。
	中九州横断道路			熊本市と大分市を結ぶ約120kmの地域高規格道路。熊本県内では、阿蘇市の滝室坂道路(6.3km)のトンネル部分が着工済み。熊本市~大津町間(約20km)については、合志市北部を通り九州自動車道と接続する「北ルート案」が調査区間となっており、同ルートでの事業化を目指す。事業化や供用開始の時期は未定。
	九州中央自動車道	623		嘉島町と宮崎県延岡市を結ぶ約95km。県内計画約44kmのうち、嘉島JCT~山都中島西ICの12.6kmは開通済み。山都中島西IC~矢部IC(10.4km)で工事が進んでいる。蘇陽~高千穂(宮崎県)間の約20kmは計画段階評価手続きが進む。
	熊本天草幹線道路			熊本市と天草市を90分で結ぶ全長約70kmの幹線道路。うち、三角大矢野野路(旧称大矢野バイパス、3.7km)は2018年度、松島有料道路(3.3km)は2002年度、松島有明道路(10km)は2007年度に供用済み。残る区間のうち、熊本宇土道路(3.8km)、宇土道路(6.7km)、本渡道路(第二天草瀬戸大橋を含む1.3km)は既に事業化されている。
その他道路	県道熊本高森線4車線化	153	2026年3月	熊本地震で被災した益城町の中心部を通る県道熊本高森線を4車線化。拡幅区間は、益城町広崎~同町寺迫の国道443号交差点の約3.5km。道幅は現在の10mから27mに広げる。着工時期2019年2月に着工済み、2026年3月までの完了を目指す。
まちづくり関連				
熊本市中心部開発	熊本市花畑別館跡地、みずほ銀行熊本支店一体再開発	100	2022年度	地上8階建てのビルを整備する方針。整備費は約100億円で、2021年度に完成する予定。みずほ銀行と共同で整備。延べ床面積約25,800㎡で、同行熊本支店の土地と合わせ、敷地面積は別館跡地の約1.5倍。市役所本庁舎1~3階にある中央区役所を移転させるほか、ホテルやオフィスとしての活用も検討。
	熊本市花畑地区再開発			辛島公園北側の旧産業文化会館跡地(約2,000㎡)に熊本市が暫定整備し、花畑広場(仮称)としてイベント等に活用中。桜町地区再開発が完了予定の2019年夏以降に本格整備に着手する方針。
施設関係				
文化・スポーツ施設	益城町総合体育館建替	40	2019年度末	熊本地震でメインアリーナの天井が崩落したほか、施設周辺が陥没するなど被害が発生。国と協議して建て替えを決定。解体済み。2019年度末の完成を目指す。
	玉名市民会館移転改築	37	2019年度	老朽化に伴う移転。移転先は、玉名合同庁舎南側の市民公園広場の敷地(約10,540㎡)。2階建延べ床面積約4,500㎡で826席の大ホールと約300席の小ホールなどで構成。2019年度内の完成を目指す。
環境関連施設	菊池環境保全組合新環境工場新築	87	2021年4月	建設予定地は合志市幾久富地区の約190,000㎡(19ha)の敷地。ごみ処理施設(処理能力170t/日)と最終処分場(埋立容量約130,000㎡)、雨水調整池(40,000㎡)などを整備。2021年4月の稼働を目指す。
	宇城広域連合新ごみ処理施設新築	100超	2023年4月	宇土清掃センターと宇城クリーンセンターを統合して整備。建設地は宇城市クリーンセンターの敷地内グラウンド(約26,000㎡)で、処理能力は99t/日。2020年の着工、2023年4月の供用開始を目指す。
その他	コストコ熊本倉庫店(仮称)		2021年春	会員制大型ディスカウントを展開するコストコホールセールジャパンが手掛ける商業施設。御船IC東側の敷地約56,000㎡の敷地に平屋の倉庫型店舗(床面積約15,000㎡)を建設。農地転用手続きなどの環境整備に着手している。新規雇用は200~250人程度で9割を地元から採用し、半数は正社員とする方針。

資料：九州地方整備局ホームページ資料、九建日報・熊本日日新聞の記事等を基に当研究所作成